



教育の成果は子どもの姿で

教育長 菊地 良夫

新型コロナウイルス感染症が5類に移行となり、各学校では公開行事が制限を緩和して5年ぶりに実施されました。各校とも行事が見直しされ実施時間の短縮や2つの行事を同日に実施するなど、コロナ渦前とは大きく変わりました。運動会は昼食を挟み、午前の部、午後の部があるのが当然という固定概念がありましたが、今や半日の開催となり、昼食を準備することもなく、場所取りをすることもなく、保護者の皆様にとっても安心して参観できるようになったと思います。また、熱中症予防のため、春の開催や晩秋の開催など時期も変更するところもありました。

このように、社会情勢の変化や気候変動などで学校行事の開催にも変化が見られるようになりました。

しかしながら、開催時期や時間が変わろうとも、学校行事は子どもたちにとっては学習の場であり、発表の場でもあります。このことは変わってはならないことと思います。

本年度は全ての小中学校の運動会に招待されました。各校とも運営等に様々な特色があり、それぞれ素晴らしい演技や競技を披露していただきました。

中学校では、運営全てを生徒たちが行って、実行委員長の挨拶は実に見事でした。当日は教師も生徒と共に運動会を楽しんでおり、ここまでに生徒たちの姿を仕上げるには、事前の教育活動が充実したものでなければ出来ないと感じました。

小学校では、分館と学校と一緒に運営する運動会や学校主体ではあるが地域の方々にも参加してもらおうと工夫を凝らした種目を設けた運動会など、5校とも様々でしたが、子どもたちは学んだことを立派に発表しておりました。時間短縮の関係で、表現活動は少なくなりましたが、それでも、玉入れ競争に表現活動を取り入れた学校もありました。特に感動ある表現活動を取り入れたのは佐川野小学校の



佐川野小学校 運動会にて

運動会でした。見事な「ラジオ体操」。1年生から3年生までの児童が「アイドル」というテーマで行ったマスゲーム。4年生から6年生の迫力ある「佐川野ソーラン」。篠笛を奏でる児童がいた「日光和楽踊り」など、感動で目頭が熱くなりました。

このように、中学校での生徒主体の運動会、小学校での表現活動など、子どもの姿は教育の成果であると思います。

今後も子どもたち一人一人が生き生きと成長していく姿が確認できるような教育を提供できるよう学校と共に取り組んで参りたいと思っています。

